

学校関係者評価報告書
(令和7年度)

令和7年11月
学校法人 都築学園
関東リハビリテーション専門学校

令和7年度 学校関係者評価委員会

学校法人 都築学園
 関東リハビリテーション専門学校
 学校関係者評価委員会

会議名	学校関係者評価委員会
開催日	令和7年10月27日(月)
開催時間	18時15分～19時15分
開催場所	関東リハビリテーション専門学校 第2基礎作業実習室
出席者	<p>外部委員(4/4名) 中山 陽貴 (医療社団法人三成会河北前田病院・理学療法士) 淵橋 潤也 (横浜リハビリテーション専門学校・理学療法士) 八木 崇 (卒業生、介護老人保健施設 ウェルピア白寿・作業療法士) 笠原 健生 (卒業生、介護老人保健施設 四季の里・作業療法士)</p> <p>事務局(5名) 奈良 研治 関東リハビリテーション専門学校 副校長 兼 作業療法学科長 石川 幸喜 同 理学療法学科長 反町 拓 同 理学療法学科教員 植木 正史 同 事務長 長谷川孔亨 同 事務職員(総務課長)</p>
配布資料	令和6年度 自己点検・評価報告書 様式3自己評価各PT,OT用
議題等	1. 会場、配置資料の説明 総務課長(長谷川) 2. 委員会参加者の紹介(自己紹介主体) 進行;総務課長(長谷川) 3. 委員長の選任 総務課長(長谷川) 4. 学校評価についての説明 総務課長(長谷川) 5. 評価項目ごとのヒアリング・意見交換
議事 (委員長選任)	学校関係者評価委員会委員の紹介・挨拶に続き本委員会委員長選任について R5年度八木委員、昨年度中山委員が委員長の為、今年度は残り2名から選出した いと提案、淵橋委員が本会委員長に立候補し、選出された。

自己点検評価表に基づき質疑応答

評価項目	質疑応答
<p>●基準1 教育理念・目標 育成人材等</p>	<p>以下の各小項目について説明した。前年度同様のため、現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。</p> <p>① 学校の教育理念・目標・育成人材(ディプロマポリシー)は、定められ学校パンフレット等に明示し周知している。</p> <p>② 学校の職業教育の特性は、各学科とも医療系の国家資格取得と明確である。</p> <p>③ 社会のニーズを学校教育の目標及び将来構想等に反映する事については、パラスポーツ指導員認定校や福祉・介護資格取得支援等を取り入れ、更に日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナー養成課程の認定を得る等の工夫をしている。</p> <p>④ 教育理念等の学生への徹底については、入学直後の新入生オリエンテーションや学校HP等に明示し、周知している。</p>
<p>●基準2 学校運営</p>	<p>以下の各小項目について説明した。特に、⑥の専任教員の配置と担当科目の適合性について、R6年度はPTの専任教員が1名不足のまま充足できなかったが、R7年度に理学療法学科の専任教員が1名充足できたことを説明した。</p> <p>① 学校の目的に沿った運営方針と ② 事業計画の策定については、年度の事業計画と予算執行計画で明示されそれに従って行っている。</p> <p>③ 運営組織や意思決定機能、④ 人事・給与規定、⑤ 教育及び予算執行等の意思決定とそのシステムについては、都築学園規定及び校務システムによる。</p> <p>⑦ 情報システムと情報公開について、今年も本校HP上に情報公開をしている事を説明した。</p>
<p>●基準3 教育活動</p>	<p>以下の各小項目について説明した。④以外は、昨年同様現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。特に④ <u>授業評価の実施・評価体制</u>についての現状を説明し、それに対して各委員から各種意見等があった。</p> <p>① 課程編成、教育到達レベルや学習時間の確保、② 各学科のカリキュラム編成については指定基準を満たし、認定を受けていること、③ キャリア教育・職業実践教育の視点に立った工夫と開発についてはR5年度と同じと説明した。</p> <p>特に④ <u>授業評価の実施・体制</u>について、現在は学生アンケートを実施しており評価を◎に変更する。ただ、回収率が低いので何か改善が必要。回収率向上策は学校で検討実施の意向である。</p> <p>⑤ 成績評価・進級／卒業の判定基準は、学則により明確であり、⑥ 資格取得に対する指導体制については、1年次から模試を取り入れ、国家試験対策講義も行っている。</p> <p>⑦ 臨床実習は、施設及び指導者が確保され、適正な指導の下、臨床実習計画及びスーパーバイザ-会議が実施されている。</p> <p>⑧ 教員が先端的な知識・技能修得のための研修、指導能力・資質向上のための取組みについては、各種研修等の参加は業務及び予算の制約の中、参加可能な教員研修等に積極的に参加している。</p> <p>⑨ 優れた教員確保するためのマネジメントや能力開発については、特に意見はなかった。</p>

<p>●基準4 学修成果</p>	<p>以下の各小項目について説明した。特に、②、③の資格取得率及び退学率について、活発な意見交換を行い貴重な提言を頂いた。</p> <p>① 就職率向上については、開校以来、就職を希望する学生の就職内定率100%であり、特に議論はなかった。</p> <p>② 資格取得(国試合格)率については、理学療法学科(昼間部)はR5年度(95.8%)からR6年度(96.4%)、作業療法学科(夜間部)はR5年度(100%)からR6年度(80%)とPTは全国平均を上回ったがOTは下回った。資格取得率の向上が必要である。学生には実習に行く前から出題領域に沿った学習が必要であり、実習の際もバイザーに関して連携した国試を意識した実習指導が必要であるとの意見があった。合格率は、学生の入学に直結するので、今後も100%を目標に実施していきたい。</p> <p>③ 退学率については、R5年度8名からR6年度2名に減少し良好であったが、R7年度前期で増加傾向にあり対策が必要。退学の原因は、学力不足、学習意欲の低下、精神的不調、人間関係のこじれ、思った職域でなく進路変更とか、それに対する対策が必要と思料する。退学しそうな学生を早期のうちに掌握し、面談等で状況を把握し処置することが重要であるとの意見があった。早期の人間関係構築のため入学前オリエンテーション、入学後のグループワーク等学生を孤立させない方策が重要であるとの意見があった。</p> <p>④卒業生・在校生の社会的活躍及び評価は、学校の広報活動に重要であり特に卒業生をもっと活用した方が良いとの意見があった。</p>
<p>●基準5 学生支援</p>	<p>以下の各小項目について説明した。</p> <p>① 進路・就職に関する支援体制は整備され、特に就職ガイダンスは、PTは、33施設、OTは、16施設が参加した。</p> <p>② 学生相談に関する体制は整備され、R6年度は、10件の相談があった。</p> <p>③ 経済的側面に対する支援体制は、各種公的奨学金及び教育ローンの紹介しており、また、毎年修学支援新制度の認定を受けているが、学生実数が3年連続で学生定数1/2以下の場合には対象校から外れるため現在厳しい状況である。</p> <p>④⑤⑥の項目については、昨年同様であり特に質疑はなかった。</p> <p>⑦ 卒業生への支援態勢については、基準4の④項同様、卒業生との関係は重要であり学校HP等を活用し、卒業生との連携を広報等に生かせないかを継続検討していく。</p>
<p>●基準6 教育環境</p>	<p>以下の各小項目について説明した。前年度同様のため、現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。</p> <p>① 施設・教材については支障の出ないように適宜整備している。</p> <p>② 実習施設の教育体制と連携については、基準を考慮した施設の設定と実習前の指導者会議の開催、実習地訪問による密な連携を図っている。</p> <p>③ 防災体制については、新入生オリエンテーション教育の中で徹底している。</p>
<p>●基準7 学生の募集と受入</p>	<p>以下の各小項目について説明した。③以外は、昨年同様現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。特に③学生募集成果が、当初の募集目標から大幅に少なく募集要領が課題である。</p> <p>① 学生募集活動については、毎年の年度募集計画に沿って、募集要項を作成して募集広報を展開している。</p> <p>② 学生募集に関する入試の評価判定基準については、現状の評価法(5点満点で合格基準3点以上)を説明した。</p> <p>③ 学生募集成果の向上を図るため高校ガイダンスやイベント等に積極的に参加し高校教員との密接な関係の構築、OCでの模擬授業実施にあたり、卒業生や在校生に協力してもらい学校のアピールを実施する等の意見があった。</p>

<p>●基準8 財務</p>	<p>以下の各小項目について説明した。前年度同様のため、現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。</p> <p>① 中・長期的な財務基盤について、法人としては安定している。</p> <p>② 予算執行、収支計画については、年度計画に基づき法人として厳格に運用している。</p> <p>③ 財務に関する監査については、2年に一度、外部の会計監査を受査している。</p>
<p>●基準9 法令等の遵守</p>	<p>以下の各小項目について説明した。前年度同様のため、現状を認識して頂き、特に疑義は出なかった。</p> <p>① 関係法令・養成施設認定基準の遵守について、適切に運営し、監督官庁の審査も受査している。</p> <p>② 個人情報保護対策、法人として学園規程を整備し、厳にこれを遵守している。個人情報の漏洩に対する危機管理を意思統一している。</p> <p>③ 自己評価・学校関係者評価・第三者評価の実施と情報公開については、毎年、本校のHPにてWEB開示している。</p>
<p>●基準10 社会貢献</p>	<p>以下の各小項目について説明した。現状を認識して、特に③の公開講座・教育訓練の実施は教員が忙しく学校の負担が大きい、学校の宣伝になるので積極的に実施を検討した方が良いとの意見があった。</p> <p>① 学校の教育資源・施設を活用した社会・地域貢献について、工夫して可能な限り実施できるように検討する。</p> <p>② 学生のボランティア活動の奨励・支援については、東京民医連等が行う夏期ゼミや地元のボランティア活動への参加を促し、毎年複数の参加者がいる。</p> <p>③ 地域に対する公開講座・教育訓練の実施については、市の広報誌を活用しながら、どのような形で実施できるか引き続き学校内で検討していく。</p>
<p>まとめ</p>	<p>今年の学校関係者評価委員会は、手続きの関係上10月開催になりましたが、各委員の御理解のもと、活発に建設的な意見、提言を頂きつつも、短い時間内ではありましたが全般的にはとても有意義な委員会となりました。</p> <p>今回頂いた貴重な意見、提言を学校として真摯に受け止めて今後より良い専門学校(教育機関)を目指して一つ一つ改善を図ってまいります。</p>

令和 7 年 11 月 25 日
 関東リハビリテーション専門学校
 学校関係者評価委員会
 委員長

淵橋潤也